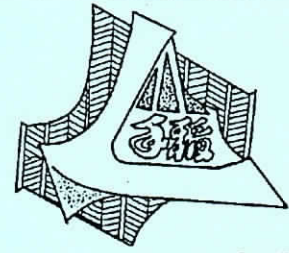


# ていね



No.128

札幌手稲高等学校PTA広報誌



ESS



漫画研究イラスト同好会



ダンス同好会



家庭クラブ



生徒会



合唱部



美術・クラフト部



図書局



吹奏楽部



## 感性豊かに

PTA会長 田中正浩

浅春の候、晴れて巣立ってゆく四十一期生の皆さんご卒業おめでとうございます。

皆さんは三年前、真新しい制服、緊張した面持ちで入学されて以来、手稲高生としての自覚を持ち勉強や部活動、各種学校行事に「継続は力なり」の精神のもと真摯に取り組み心も体もすっかり成長し人間性を高めたくさんの友情を築いてきたことと思います。

皆さんはこれから将来の目標にむかって大きな一歩を歩みはじめ多くの時間を過してゆくわけですが、時間はただの入れものにしかすぎません。人によって過ぎゆく時間は様々です。時間という入れものにどれだけたくさんの宝物を詰め込むことが出来るかによつて将来の目標達成に大きく影響します。

そこで私は皆さんに物事を色々な角度から見つめ想像力を無限に広げ、人とは一歩違う創造力がありオリジナルの表現ができ、自分の心に浮かんた事に正直で子供のような純粹な心を持ち五感をフルに稼働させ目には見えないものをも感じ取ることができ、常に前向きであり続けることができる感性の豊かな人になって頂きたいと思えます。「感性」とは印象を受け入れる能力や感受性、また感覚に伴う感情、そして衝動や欲望のことをいいます。「感性」は非常に広い概念の含まれた言葉なので一言で言い表すのは非常に困難

です。大きく分けるとまず心と体に分けられます。心の感性とは人の気持ちを感じる力、流行を感じる力、芸術性の場の空気を読む力、ファッショセンス、発想力、インスピレーションなどがあります。又、体の感性とは運動、知能、歌、字、触れられることに対するの敏感さがあります。これらはほん

の一例ですがこの両方が重なる場合もあります。例えば体の感性として歌の能力が高く心の感性として歌で相手の心を共感させることができるといったことです。いずれにせよ感性の豊かさとは人間としての総合的な能力の高さであります。つまり感性とは現時点の才能ではなくあらゆる成長力そのものに大きな影響を与える大切なものであるということになります。感性豊かな人間になるためにはネガティブな感情を抱かずポジティブな感情による努力が必要であると言われています。すなわち精神的な余裕を持つことが重要であるとということになります。

皆さんが手稲高出身者としての誇りを持ち将来の目標に向かって努力し、必ずや達成されますことを心から御祈念申し上げます。

最後になりましたが日頃よりご指導頂いております学校長はじめ教職員の方々に敬意を表すると共にPTA活動にご理解とご協力を頂いております保護者の皆様ならびに後援会の皆様にご心より御礼を申し上げます。



## 未来へ翔たけ

PTA三年次委員長 石亀 泉

四十一期生の皆さん、卒業おめでとうございます。三年間の高校生活を終え、皆さんは今どんな思いでいるのでしょうか。大きめの制服を着て通学した日々も今日で最後。今では丈が短くなつてしまいましたね。

「継続は力なり」の校訓を胸に手稲高生として過ごした三年間で得た事は数限りなく有ると思います。クラスで心一つになった学校祭や球技大会、自分自身と闘ったマラソン大会、何よりも思い出深い見学旅行。三年生になつてからは模試も沢山有り頑張りましたね。

春になると皆さんはそれぞれの道歩んで行きます。今まで経験した一つ一つが宝です。その宝を手に来へ歩みを進めて下さい。ですが長い人生の中で、皆さんはまだ十八年しか生きていないのです。途中で振り返る事や歩みを止める事もあるでしょう。大きな壁に阻まれ迷った時は誰かに相談して下さい。友・恩師・親：周りには皆さんを支えてくれる人が沢山います。決して一人ではありません。未来へ向って前進して行く姿を見守っていきます。

夢(目標)を持ち、色々な事に挑戦し、そして努力する事を惜しまないで下さい。人生の中にはここぞとばかり頑張らなければならぬ時が幾つかあるのです。これからは更に新しい出会いもあるでしょう。人と人の繋がりも大切にして欲しいです。母として願う事はただ一つ。子供の幸せだけです。未来へ向かって大きく翔いて下さい。

終わりにりましたが、三年間ご指導頂いた教職員の皆様、PTA活動にご理解とご協力を頂いた保護者の皆様、本当にありがとうございます。PTA役員として一緒に活動出来た事は、私自身の宝です。これからも子供達の成長を温かく見守ってくださいますようお願い申し上げます。





## 温かみのある人生を

三年次主任 富田 真哉

三年生のみなさん、そして保護者の皆様、本日は卒業おめでとうございます。陰となり日向となり、そして九人目の担任という立場でみなさんと歩んできた三年間が、大変充実していたことは、生徒のみなさんや保護者の方々のご協力やご尽力のおかげだと、この場を借りて御礼申し上げます。

さて、この三年間を振り返ると、私たちを取り巻く世界は大きく変化しつつあることを実感した年月であったと思います。それは視野を広げ世界へと目を移せば、科学技術のめざましい進歩や国家情勢の平和へ向けたシフトであったり、国内を見ても、異常とも思われる気象による災害や、それを乗り越える復興の力など、ますます私たち人間は、外的な変化へと対応する力をも身につけていることが求められる時代になったと感じています。

そして、なお一層、他者を思いやる優しさや、自分を大切にすること、社会に貢献する奉仕の心などを備えた人間が求められる時代になると感じています。人間がしてきたことを代わ

りに人工知能を備えた自動車や介護ロボットが行う世界がそこまで来ています。しかし、それが人間にとつていかに便利であっても、私たちは人間が持つ性質の中で「なんかあったかい」という言葉で形容できる心の特質を忘れてはいけません。

この三年間、生徒のみなさんには、それを少しでも感じて学校での生活を送ることができるよう努力をしてきました。私たちが伝えてきた「なんかあったかい」という心を、今度はみなさんが世界で多くの人に伝えていって欲しいと思います。学習から得られた知識や高校時代の経験だけでは、世界は変えられません。もっともっと世界に羽ばたく人材になって活躍することを祈っています。

まずは、私が君たちにしてきたように、近くで困っている人に「なにかあったかい？」と声をかけてみることで、多くのことが変わるはずですよ。期待を込めて、健闘を祈っています。



## チームワーク

PTA二年次委員長

藤原 容代

昨年に続き、年次委員長としてPTA活動に携わってまいりました。学校祭、マラソン大会、球技大会などの沢山の行事に参加する中で、手稲校生の生き生きとした学校生活を身近で感じることができ、私自身とても貴重な体験をさせていただきました。

娘は女子バレーボール部のキャプテンとして日々奮闘しております。何事にも諦めずに頑張る姿を見てみると、チームワークの重要性を考えさせられました。チームワークがチームは、一つの目標に向かって協力し合い、お互いを励まし、鼓舞しながら実力以上の成果を生み出すことができます。これは、学校PTAでも同様のことがいえると思います。相手を思いやり、お互いの信頼関係を深めていく…

よりよい学校にする為には、学校・保護者間との強い絆が大切ではないかと改めて考えさせられました。卒業まで残り一年となりました。子供達の為に自分ができることを模索しながら、残りの時間を大切に過ごしていきたいと思えます。

## 「はじめの一步」

PTA一年次委員長

佐々木 麻美子

ドキドキした入学式からもうすぐ一年。親も子も期待と不安の中踏み出した高校という世界への「はじめの一步」。転勤族である我が家の思い出のアルバムに、また新しい地でのページが増えることに感謝し私はPTA役員への一步を踏み出しました。

右も左もわからない私の質問にも先生や先輩役員の方々は、お会いするたびに優しくたくさんアドバイスをくださいました。また年次委員の仲間達は、昔から友達だったのではと思うほど気さくな方ばかり。多忙にも関わらず、皆率先して共に考え共に協力してくださいました。

一步を踏み出さなければ得られなかったこの出会いにより、この一年転勤による不安もなく子供達の学校での様子を知ることができ、またより良い学校生活にするために微力ながらも保護者や子供達の声を学校へ伝える機会をもつことができました。

いくつになっても子育てへの心配はつきません。子供達ですが、親も手稲高校の三年間を振り返った時「この高校に入学させてよかった」といえるように、保護者と学校との橋渡しともいえるPTA活動を今後も支えていきたいと思っています。

一年間楽しい時間をくださった皆様本当にありがとうございます。





当たり前だけど…  
三年五組担任  
三鶴 直樹

ご卒業おめでとうございます。今日この日をみんなで一緒に迎えられることをとてもうれしく思います。

たかが三年間。高校を卒業することは特別なことではありません。されど三年間。振り返ると決して「楽勝」ではなかったと思います。でも苦しいとき、辛いとき支えになってくれた特別な人がきつといたはず。今日は特別な日なのだから、そんな人たちのことを思い、感謝する日にしましょう。そして、これからも当たり前前だと思わず、



常に感謝の気持ちを持って、人生を歩んでいってほしいと思います。最後に、卒業生の皆さん、保護者の皆さん、当たり前のように三年間担任を全うさせてくれてありがとうございます。



邂逅  
三年六組担任  
木村 郁夫

ご卒業おめでとうございます。「邂逅」とは二年次から使ってきた学級通信のタイトルであり、「巡り合い」を意味します。私は本校二十期生として五年前に母校に戻ってきました。この間、教育実習でお世話になった先生との再会、本校でお世話になっていた企業の方の一人が実はかつての同級生であったことなど、思いがけない出会いを数々経験しました。その一つが財産です。

皆さんも本校で過ごした三年間を通して、クラスや部活動等で数々の出会いがあったことと思います。仲間と共に過ごした日々



はいつまでも鮮明に思い出として残り、話題が尽きることはないでしょう。本校での出会いを大切に、これからも邁進してください。いつの日かどこかで、皆さんにも「邂逅」が訪れることを願っています。



良き出会いを。  
三年七組担任  
上西 亮

人は常に誰かに支えられています。「自分を支えてくれている人の存在」に気づき、感謝できる人であって下さい。同時に誰かを支えられる人であって下さい。

「良い仲間、同僚」は人にとって最も大事な宝の一つです。悪い人には悪い人しか集まりませんが、良い人であれば良い人も集まります（悪い人も来るので注意！）。より深い思いやりを持ちましょう。

自分が少し気を利かせたり、自分が勇気を出して一歩前に出たりすることで、誰かが喜んでくれる、そんな事を喜べる人であってほしい



と思います。そして、良い仲間に出会って欲しいと思います。みんなが良き出会いに恵まれることを祈っています。卒業おめでとう。充実した三年間をありがとう。幸せになつてね。



充実した時間  
三年八組担任  
葛西 勇樹

ご卒業おめでとうございます。

長かったようで短かった高校生活も、もう卒業です。思い起こせば、緊張した面持ちで入学式を迎えた皆さんも、卒業を迎え、次の新たな旅立ちをする時になりました。

この三年間、いろいろなことを体験出来たでしょう。その一つ一つは、簡単ではなかったけれど、でも、充実した時間を過ごすことができたと思います。この三年間で得たことは、これからの皆さんの生きる力であり、これから進む道の礎です。卒業後は、今まで以上に努力しないといけないことも多くあると思いますが、手稲高校で得たたくさんの仲間や経験は、これからの皆さんを支えてくれるはず。手稲高校で過ごした三年間をもとに、今後の人生でも充実した時間を多く過ごすことができます。



たくさんありますが、手稲高校で得たたくさんの仲間や経験は、これからの皆さんを支えてくれるはず。手稲高校で過ごした三年間をもとに、今後の人生でも充実した時間を多く過ごすことができます。

校長室訪問



校長室訪問  
（木）委員二名（宮田美恵子、松田夏美）が新年明けから宮嶋校長を訪問し、手稲高のあれこれについてお話を伺って参りました。

宮田 年始早々対談の機会を設けて下さってありがとうございます。私事ながら、とうとう今年息子が卒業の年を迎えました。

松田 私の子どもも元気に通っておりまして。休まず通えていることにまずは感謝です。

校長 私たちの子どもも含めて（笑）、手稲高の生徒さん方は校長からご覧になってどのように映りますか？

松田 まずは、いい生徒だなあ、との一言ですよ。こんな「いい生徒」達が今後「いい社会人」になるのにこの高校でどのような力を付けさせるべきか、このことが一番大事なことと、その実現に現在先生方と創意工夫している最中です。

校長 また、最近、挫折や他人から怒られる経験がほとんどない、という生徒が増えてきています。打たれ弱い面がときどき見えて少し心配な部分です。

松田 いわゆる「温室育ち」が増えてきているな、とは感じます。ちょっと怒られるとすぐ泣くようなだれも、人はいつの日か「自立」しなければなりません。そのためにも、こういったちよつとマイナスな経験も大切で、それは例えば部活動等をしているときとまた違ってくるはず。そういう意味では、高校時代にいろいろなることを経るのが大事だと思っています。

宮田 多くの経験が生徒を育てるといふ事で言えば、何かとマイナスな

対談

意味で取りあげられる本校の立地条件、とくに冬の登校経験が生徒のためになっている、と個人的には思っています。

校長 年末の大雪には閉口でしたが（笑）、確かに、どこで不自由な思いをさせるか、と言う観点で見れば、そういう側面はあるかもしれませんね。

宮田 我々の一世代前は先輩が我々を鍛えてくれました。教員が怒るよりはるかに教育的効果があったものですね（笑）。今はそんなことがほとんどない。また、今の生徒達は何が悪いことをしてその行為を地元のおじさんにたしなめられる、といった経験もほとんどない。こういったことから悟る部分も大きいはず。

松田 それから、確かに勉強はしているが、自分で目標を持ってやっていると、言う部分が少ない弱さを感じます。全国的にそういう生徒は少ないのですが、本校のようないい生徒の層からはもっと多くの者がそうであってほしい、という願望があります。

校長 高校は自己責任、というのが大前提だと個人的には思っていたのですが、子どもを見ているとそういう部分がありなく、中学の延長線上にあるように見えます。本人自身が十七歳になるのだというものがまだ信じられていないのですが、それでもようやく最近、大人の世界には足を踏み入れていくように思っています。

松田 情報量多い世の中で、選択肢も多くなっています。大学のあれこれも今やスマホで簡単に調べられる時代。昔は限られた情報の中で

の選択ゆえ、進路について考えることもある種単純で済みました。ただ「勉強する」だけでいいのでしょうか。実は社会は学生に即戦力であれ、と求めてきています。そんな中で、高校時代は他人との円滑なコミュニケーションの方法を教わる最終チャンスでもあります。その能力が下がっているんじゃないかと思っています。顔を見て話すとか、対人での会話能力とか。

松田 そうですね。スマホに注視してしまいます。確かに社会人にとっては重要なツールですが、高校生にとってはどうなんだろうと。ここ十年で大きく変わった事の一つに、勉強の敵は、と聞けば、昔テレビ、今スマホ（笑）。画面を眺めて日常生活の大半を過ごす生徒が増えています。

校長 あるクラスで、アンケートを採りました。勉強したくないのはどんなとき？の問いに、多くの答が「寝不足の時」。この原因はほぼスマホなのです。大事なのはスマホに対する自制心、が働くかどうか。

松田 先日、(PTA)会長とこのことをお話ししました。そこで、生徒の生活をきちんと立て直せるよう、Pが生徒会、学校とコラボして何かやらないといけない、ということになりました。生徒自身で作ったルールではなく、多くの人が関わった共通のルールがないと、これはうまくいかないかも知れない、そう思います。

宮田 家庭クラブのアドレノスが地域で有名で驚きました。学校祭で全種類購入するんだと仰っていたご婦人が周りにたくさんいらっしやあって、売り上げのお金でカンボジアに井戸を掘るという記事が新聞に載って、嬉しくかつ誇らしい気分になりました。

校長 うちのアドレノスは安いいし、おもしろい（笑）。家庭クラブの活動は目的、使命がはっきりしているいい活動だと感じています。

松田 例えば小樽市民に絶賛されている（小樽）水産高校のツナ缶のよいな存在だと思えます。学校の特色がある意味はつきりしているのは素晴らしい事ですね。

宮田 普通科高校では珍しいんじゃないでしょうか。

校長 生徒の活動という点では他にも生徒会の雪祭りボランティアや美術・クラブ部の雪像づくり、吹奏楽部や合唱部の地域ボランティアなど、いろいろありますね。人間の考え方は高校までである程度固まると言われますから、この点からもいろいろな経験を行うことが大切だと思いますね。

宮田 最後は、今後の手稲高校について、お願いします。

校長 高校時代の「先」を見据えて育つたい。そのために、保護者、地域と今まで以上に連携していきたい。皆さんと同じ方向をしっかりと向いて子どもを育てたい。現教員の力を向上させることも大事です。まずはこの部分が最優先。

松田 生徒が、母校を誇りに思っている、しっかりと人生を歩んでいけるように、そういう手稲高校だということをもっと伝えていきたい、と考えております。

宮田 「継続は力なり」ですね。

宮田 本日はありがとうございました。



# 合格体験記

## 私の選んだ道



三年一組  
佐藤 葉菜

私は、幼い頃からの夢だった北海道警察の内定をいただきました。入学当初は進学を目標にしてみました。インターシップなどの総合学習を通して、これからの自分の人生についてよく考える中で、一早く現場で経験を積み、一人前の警察官になりたいと思うようになりました。

それまで進学を希望していたため、突然警察官を目指したいと言うと、両親や先生には「大学へ進んだ後は駄目なのか」と心配されました。警察官は体力が必要だし、全道を転勤する仕事は一人暮らしの経験のない私にはつらいのではないかと心配する気持ちも分かります。それでも、どうしても諦められません。採用説明会などで情報を集め何度も話し合うことで両親も理解し、応援してくれるようになりました。

市役所、自衛隊はみな八月に一次試験があり、最終合格発表は十一月十二月初めでした。そのため当然センター試験などの対策と両立することは難しく、「もし就職が駄目だったらどうしよう」という不安で押しつぶされそうになることもありましたが、先生方にもサポートしていただきながら、問題集などで自学し、乗り切ることができました。

私が夢の第一歩を踏み出すことが出来たのは、ひとえに周囲の人々の助けがあったからです。相談に乗っていただいた担任の先生、サポートをしていただいた年次主任の先生や進路の先生、お忙しい中論文の添削をして下さった先生方、応援してくれた家族、そして身近で支えてくれた友人、ありがとうございます。

また、在校生の皆さんへ、私のように就職を目指す方は少ないと思います。でも、自分の進みたい道があるのなら、一人で悩まずにまず両親や先生に相談してみてください。気持ちを伝えればきっと力になってくれるはずです。

そして最後に、私は大学進学はしませんでした。この三年間学んできたことが無駄だったとは思っていません。きっとこれから先、助けになってくれるのだと思います。まだ私は一歩を踏み出したにすぎませんが、これからも努力を続け、北海道の安全を守る立派な警察官になりたいと思います。

## チャレンジが道を拓く



三年四組  
島山 侑咲

私が都留文科大学を知ったのは二年生の時の担任との面談でした。興味があった図書館司書資格を取得できるとわかり、志望校をここに決めました。

しかし、バトミントン部の活動をやっていたときは考査の直前以外はあまり勉強をしなかったため、最後の大会が終わって引退直後はすぐに勉強に取り組む気持ちがありませんでした。そこで私は毎日放課後に学校に残って勉強する習慣をつけることからはじめました。三年生の夏、部活顧問から都留のセンター利用推薦について詳しく話を聞きました。考査だけはまじめに取り組みでいたおかげで評定は足りていたので、この推薦を視野に入れることにしました。その後は授業や講習、模試に加え、添削も継続して取り組みました。特に考査は基礎的な問題が多く確認に最適なので手を抜かず取り組みました。

受験を終えた今、周りの人々の支えがあったからこそここまでこれた、と強く感じます。担任や顧問の先生のお話がなければ大学に受かっていなかったかも知れません。忙しいなか沢山の先生方が添削をやってくださった事も感謝しています。また、親は一年生の時から講習や模試などのお金を払ってくれ

たり、道内にこだわっていた私に道外への進学という選択肢を与えてくれたり、大学について熱心に調べてくれたりと、様々な面で協力してもらい、感謝しています。ありがとうございます。

受験は勉強だけしていればいい、と思いがちですが、高校三年間の経験全てが結びつくと私は考えています。部活の大会で毎回緊張していたせいで慣れてしまったのか、センター試験本番はまったく緊張しませんでした。部活をやっていた良かったと思えました。また、資格を取ったりボランティア活動に積極的に取り組むのも良いと思います。受験に役立つし、なんと自分も自分のためになります。在校生の皆さんはまだ時間がたくさんあるので、何事にも積極的にチャレンジしてほしいです。一年後、二年後に後悔しないようにたくさん人の話を聞き、毎日大事にしなから残りの高校生活を楽しんでください!!

## 副校長着任



太田 吉祐  
(副校長・地歴公民)

- 一、小樽潮陵(定時制)
- 二、スポーツ(スキー、水泳)
- 三、生徒と先生方が、進路目標達成に向けて、ともに頑張っている学校。
- 四、生徒一人一人の夢や希望を叶えるため、先生方と力を合わせて努力したいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いたします。

### お世話になりました

御勇退される  
教職員の方々



校長 宮嶋 衛次

#### おかげさまで退任しました

一昨年の四月から二年間この手稲高校で勤務させていただきました。初任が隣の新川高校ですから、場所的にはほとんど振り出しに戻ってきたこととなります。

初任の頃と比べると教育を取り巻く環境は大きく変化しており、保護者や地域の方々が求める学校の役割も変化しています。この結果、教職員に求められる業務量は飛躍的に増大しています。

私が理想とする教育は、地域と家庭と学校がそれぞれの役割分担をしっかりとして果たし、生徒を自律した社会人に育てることです。このためには、お互いが責任を押しつけ合うのではなく、同じ方向を見て生徒を辛抱強く育てる姿勢が大切だと思っています。

理想の教育に向けて、志半ばで退職することに残念な思いはありますが、手稲高校を支えてくれている地域の方々、保護者、教職員が同じ方向を見て、理想の教育を実現してくれることを願っています。

二年間、ありがとうございます。

これからは、外部応援団の一人として手稲高校を見続けていきます。



教諭 中澤 謙

#### 閉の定くお別れです

拓北高校の募集停止に伴い、平成二十五年に赴任し、わずか四年で退職を迎えることになりました。

手稲高校の生徒はとても素直で、努力家です。この学校の校風と実績は生徒自身が作り出しているといっても過言ではありません。

勉強面では、課題に真剣に取り組みます。傍目でも、大丈夫なのかという量をこなしています。

部活動にも真剣に取り組みます。勉強との両立を目指し、加入率の高さには正直驚いています。

ただ、願わくはその真面目さに自主性がプラスされたなら、勉強でも部活動でも、より一層の実績があげられるのではないのでしょうか。「自主性を育む」、これは生徒にとっても、学校にとっても最重要課題ではないでしょうか。私自身、やっとな方向性が見えてきたところでした。

なので、まだまだ手稲高生と一緒に学校生活を送りたかったです。

辞めたくありません。でも、仕方がありません。

保護者の皆様、ご支援、ご協力を

本当にありがとうございます。



教諭 伊藤 友一

#### 教師冥利に尽きる

いつかこの時がくるとわかってはいたけれど、この三月に定年退職を迎えることになりました。遅かったような早かったような気持ちです。

街で歩いていると本校の卒業生や前任校の教え子にツカツカと近寄ってこられ××の時の〇〇です、その節はお世話になりました、と挨拶されることがあります。昨今教育を取り巻く環境が一層厳しくなってきたり、教師のおかれる状況が息苦しく、窮屈になってきている中で、多分他の職業では味わうことのできない感慨ではなからうか。この時だけはこの仕事をやってきて「ああ、良かった」と思うのであります。生まれ変わってきたならばまた手稲高生のような生徒を相手にして教壇に立ちたいものだと思います。この六年間、本当にありがとうございました。

広報委員長

宮田美恵子

#### 広報委員の活動を振り返って

手稲高校に子供が入学して早三年、子供の高校卒業と同時に私のP

TAのお手伝いもいよいよ卒業を迎えることができそうです。

年に三回発行するPTA広報誌「ていね」は、それぞれの学期に行なわれる行事の様子を知ることが出来る広報誌となっています。

各学年ごとに担当し、掲載内容の打ち合わせや原稿の依頼、写真の選択、原稿が出来上がってきたら広報委員で添削をいたしました。慣れない作業で緊張しましたが、三回程の編集会議で委員の方々と一緒に親子を相談することも出来今年度もあっという間の活動でした。充実した三年間を過ごすことが出来、感謝しています。

最後になりましたが、お忙しい中原稿依頼や取材にご協力頂いた皆様、そして担当の先生方に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### 編集委員

次回担当 1年次 次  
今辻 菅野 瑞 恵  
菅野 田 夏 美  
菅野 正 先生  
菅野 剛 先生

